



■最近の話題

青森県庁技術職1DAY職場訪問が開催されました

令和2年8月11日、総合土木[※]や農学等の農林水産系の仕事に興味のある方を対象とした「技術職1DAY職場訪問」が開催され、総合土木（農業土木）には高校生6名が参加しました。

午前に行われた農林水産部の業務概要説明では、部の業務・組織や県重点施策である「攻めの農林水産業」について説明が行われました。その後、先輩職員体験談や執務室見学が行われ、職員の真剣な仕事の様子から、参加者たちは少し緊張気味の様子でした。

午後は、現場見学が行われ、農業土木コースでは、浪岡ダム（青森市浪岡）にてダムの役割を学び、ほ場整備を実施した福島徳下地区（藤崎町）では、事業効果や環境公共の取組について学んでいました。

また、今回見学した福島徳下地区では、ナマズとの共存を図る取組として、幹線排水路から遡上が可能となるよう水田魚道を設置するとともに、ナマズの生息が可能なビオトープを整備し、生息環境の保全・再生を図っています。

最後に、今回参加された方々が、本県の職員として採用され、将来の農業農村整備を担う技術者として活躍されることを期待しています。

[※]本県では、「総合土木」として、土木（県土整備部等）と農業土木（農林水産部農村整備課）を一括で採用しています。



浪岡ダムの説明の様子



福島徳下地区の説明の様子

農業農村整備に係る講義

令和2年7月20日、弘前大学農学生命科学部の授業の一環として、「青森県の土地改良」と題し、県農村整備課増岡課長による講義が行われました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学の講義がオンラインで行われていることから、動画配信による講義となりました。また、環境公共分野からは、ラムサール条約登録湿地に隣接する北三沢地区（三沢市）に係る地域農業の再生と環境の共存について、事例を紹介しました。

今後もこのような活動を通して、環境公共の理念や取組などを伝えていきたいと考えています。

地域農業の再生と環境の共存（北三沢地区と仏沼）

- 仏沼はヨシ、マコモが生育し、所々に小さな池沼地が作られる自然湖沼
- 昭和38年、開田目的で干拓着手されるも昭和44年開田抑制
- 水田整備されたが、生産調整に従い、米は作付けされず
- 干拓地では水田以外の耕作は困難
- 311戸の農家は干拓地が水没しないために仏沼からのポンプ排水、道路と水路を維持するために毎年春にヨシ原へ火入れ
- 昭和48年頃からオオセッカを含む200種以上の野鳥の生育地・中継地・渡来地・繁殖地になり始めた
- ラムサール条約登録【特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約】湿地に隣接する農地において、大区域は場整備を実施（事業期間平成23～27年度）

オオセッカ
（環境省指定：絶滅危惧1段階）

※本県はラムサール条約登録湿地に隣接する農地（北三沢地区）において、大区域は場整備を実施（事業期間平成23～27年度）

事例紹介

■「環境公共」事例紹介

西海岸広域農道におけるアジサイの植栽活動について(深浦町)

1 地区概要

現在、深浦町で建設中の西海岸広域農道(約 15.3 km)のうち、すでに開通している風合瀬地区集落の沿線(約 10.3 km)の一部において、西海岸地区環境公共推進協議会がアジサイの植栽活動を毎年行っています。

この活動は、平成 15 年に緑化活動の一環として、深浦町が中心となって始め、その 2 年後に風合瀬自治会が活動を引き継いでいます。平成 22 年度からは、県の「環境公共」の推進を契機に本協議会が設立されたことから、地域住民や関係団体が中心となって、現在に至るまで活動を行っています。



開花したアジサイと農道

2 活動内容

今年は 7 月 16 日に、地域住民や環境公共コンシェルジュなど 33 名が集まり、苗の植栽作業を行いました。当日は天候にも恵まれ、涼しい風が吹き抜ける中、作業を行うことができました。

また、今年は水やりに一層重点を置き、「パークチップ」という保水材も用いながら、これまで以上にたっぷり水やりをしました。アジサイは苗からの植え付け後に、根が土に活着するまでが重要であり、植栽時期が夏ということもあるので、乾燥にはより気を使わなければなりません。今年のアジサイには、より水分補給をしてもらい、大きく育つように願いを込めて植栽しました。



植栽状況



水やり及びパークチップ散布状況

3 今後の取組

これまでの活動の成果として、沿線約 1 km にアジサイが咲き誇っています。開花時期にきれいに連なるアジサイは本当に絶景です。

このように、農村地域の景観保全をしていくためにも、本協議会では、日常の維持管理(水やり、アジサイの剪定、ゴミ拾い等)を通じて、西海岸地区の地域資源を次世代に引き継いでいきたいと思っています。



ずっと続く西海岸広域農道